

# 日本におけるGAPの推進について

- **GAP(Good Agricultural Practices : 農業生産工程管理)**とは、農業生産において、農業の持続可能性を確かなものとする一連の管理手法です。
- 農林水産省は、日本の産地において、5分野を含むGAPを推進しています。
- 日本では、民間団体が主体となってGAP認証プログラムが運営されています。

JGAP

ASIAGAP



## 5分野のGAPとSDGsとの関わり

### 食品安全

土壌、水及び農薬等の危害要因に対するリスク管理



### 環境保全

土壌、肥料、農薬及び廃棄物等の適正な管理による環境の保全



### 農場経営管理

農場のルール決定、農場の日々の作業記録及び記録の保存を通じたトレーサビリティの確保



### 労働安全

農業機械の適切な使用等、労働安全に関する危害要因に対するリスク管理

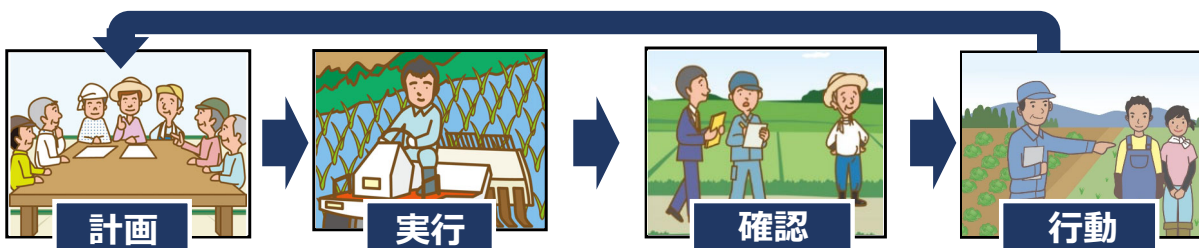


### 人権保護

契約に基づく労務管理、快適な職場環境の整備



## PDCAサイクルによる農場経営の改善



2023年3月時点

未来の食を守るのは、私たち農業者

➤ GAPに取り組んだ効果

農場全体が、記録を残すことの重要性を再確認した。農場管理の見える化が図られた。

➤ 今後の展望

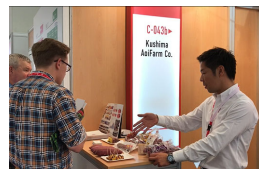
GAP認証を活用し、G7各国を含む海外への輸出をさらに進めたい。

➤ 農場の情報

- 認証取得時期：2019年10月
- 認証品目：かんしょ
- 構成員：122名（役員4名、正社員46名、技能実習及び特定技能46名、パート26名）
- 面積：45ha



小さくて料理しやすい  
“おやついも”



ドイツでの食品見本市



育苗～定植～収穫～調整の工程

農場の取組とSDGsへの貢献



農場全体の情報をIT管理  
農場管理に関する記録を作成



手袋等による衛生管理の徹底により、  
異物混入のリスクを低減



生分解性マルチの使用による  
廃棄物の削減



外国人技能実習生向けに母国語の動画マニュアルを作成  
働きやすい環境の整備



収穫機の適正な使用による  
作業上の安全確保





2023年3月時点

日本茶の魅力が鹿児島から世界へ

➤ GAPに取り組んだ効果

農業現場における整理整頓や肥料・農薬・資材管理をルール化した。その結果、コストの削減につながった。

➤ 今後の展望

GAPは、生産工程を管理するうえで今後とも必要。G7各国を含む海外への輸出をさらに進めたい。

➤ 農場の情報

- 認証取得時期：JGAP 2015年3月  
ASIAGAP 2019年3月
- 認証品目：緑茶、ウーロン茶、紅茶
- 構成員：100名（正社員70名、ほかシルバー人材や特定技能等30名）
- 面積：300ha



“煎茶”



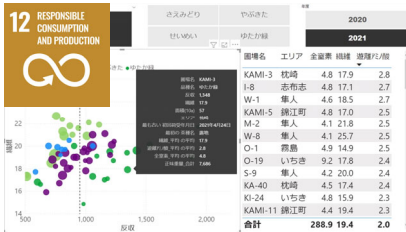
鹿児島堀口製茶有限会社



茶工場外観、茶園における収穫、茶工場内部

Japanese tea selection Paris 2022-2023  
GRAND PRIX

農場の取組とSDGsへの貢献



IT管理で経営を見える化  
産地全体で成分等のデータを分析



衛生管理の徹底により、  
異物混入のリスクを低減



自社から排出される茶がらを牛糞に混ぜ、堆肥を製造  
廃棄物の削減



危険な箇所でのリスク評価を実施  
けがや事故防止のため、作業者の間で認識を共有



充実した福祉（トイレの適切な設置、遮熱防護服の配布等）により誰でも動きがいのある雇用環境を整備